



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー⑭

かたやまかずひと
片山和人さんプロフィール

片山木工所 代表

昭和54年、坂城生まれ。3人兄弟の末っ子ながら家業を継いで今年で6年目。高校卒業後、松本市の技術専門学校で木工を学ぶ。技能五輪で金・銀メダル受賞、全国建具展示会で専門技術委員長賞を受賞するなど組子細工をはじめとした技術力に定評がある若手建具職人のひとり。趣味はゴルフでスコアは90前後。仕事柄家にいることが多く、「子供とよく遊んでくれる」(奥さん) 良きパパでもある。ご家族は両親、奥さん、4歳の女の子、1歳の男の子、愛犬トイプードルあゆちゃん。

地域にしつかり腰を据え 仲間と家づくりを担う建具職人



約40年前に父が創業した木工所の2代目。松本技専卒業後、近くの同業他社で修業し、6年前、結婚を機に家業を継ぐ。その後、個人住宅の建具全般の制作・施工を請け負う。昨今の住宅事情により昔ながらの技巧を駆使する建具が減る中、フラッシュドアと呼ばれる建具の需要が増え、その制作に忙しいというが、その一方で、高い技術力が要求される「組子細工」を自身の武器とすべく、日夜研究・研鑽に励む片山和人さんに、これからの抱負などをお聞きました。

——家業を継がれた経過などをお聞かせください。

「幼い頃、組子細工を見て『これはすごい』と興味を覚え、中学の時には将来建築の仕事がしたいと思いました。しかし、3人兄弟の末っ子です。まさか自分が家業を継ぐとは思っていませんでした。6年前、実家に戻り、父の仕事を引き継ぎました」
——最近のお仕事の状況はいかがでしょう？

「建築現場で寸法を測り、作業場で加工し、出来上がる」と現場で建て付けて、時にはその場で調整する、といった毎日です。最近は生活様式の変化から障子や襖、欄間など昔ながらの建具は減り、替わって増えたのがフラッシュドアと呼ばれる洋風建具です。」
——和人さんは、「組子」細工がお得意だとか。受賞歴もお待ちですね。

「まだまだですが、自分の持ち味にすべく取り組んでいます。全国建具展示会という大会があるのですが『専門技術委員長賞』をいただきました。建具職人でも組子ができるかどうかで評価が変わりますから、これからもできる限り技術、デザイン力を磨いていきたいですね。また、組子制作には時間を割くようにしています。一般的な建具ではないのでなかなか注文はありませんが、いつかは組子細工の建具類を造りたいですね」
——ぜひ拝見したいものですが、和人さんの手がけた組子細工を見ることはできますか？
「坂城町の町長室に寄贈しました。応接セットのテーブル

ルが組子細工になっています。なかなか町長室にもありませんが、機会があれば見てください(笑)。

建具を身近に知ってもらいたくて、町の生涯学習の講師として木工教室を開催する計画を進めています。気軽にカンナで木を削ってもらおうなどして木に親しんでいただきたいですね。よかったらぜひご参加ください」

——ところで、このコーナーで前回お話をお聞きした大工棟梁の菱田昌平さんは技術を高め、本物の木の家を造っていきたくて語っておられましたが、和人さんの考えとも共通するものがありますね。

「菱田さんとは同世代で、同じ家づくりに携わる仲間として親しくさせてもらっています。実は昨年、私の企画で、菱田さんにも関わってもらい、坂城の業者だけで兄の家を新築しました。『地域密着型』の一つの試みで、『坂城らしい家づくり』といったらいいんでしょうか。小規模でもいいので、町の活性化にも繋がっていく活動にも取り組んでいきたいですね」